



来場者も出店のお手伝いしてくれたボランティアの皆さんもみんな笑顔です。

2014年8月の土砂災害で被害を受けた広島市安佐北区の復興を応援しようと、15年2月11日、学生のボランティア団体や社会福祉協議会などが主催する「復興すまいるフェスタ」が安佐北区総合福祉センターで開催されました。

出店ブースには、みやぎ生協と生協ひろしまの組合員・職員の姿が。二つの生協が協力して出店することになった経緯や思いを伺いました。

土砂災害発生後の 生協ひろしま

死者74人、家屋の全壊133戸、半壊122戸、一部損壊・床上床下浸水4、304戸の被害があった2014年夏の豪雨に伴う広島市の土砂災害。発災後、広島市などと災害支援協定を結んでいる生協ひろしまは、行政と連絡を取り合いながら、被災者の避難場所へ食料や生活物資をお届けしました。

生協ひろしま・総合企画部統括部長の高橋房大さんは「いち早く行動できたのは、東日本大震災での支援の経験があったからです」と話します。

「物資をお届けした後は、組合員や職員の安否確認や家屋から土砂を掃き出すボランティアを行ないました。態勢を整え迅速に行動できたと思います。ただその後の活動では、被災者のニーズを詳しく把握できなかったという反省もありました。生協には、すぐに協力してくれる組合員さんがいますし、現場をよく知る配送担当者もいます。その強みを生かして、もっと地域と連携してできることがあったのではないかと思っています」（高橋さん）被災した方々は避難所から飯の

生協がつなかり 地域の復興支援に取り組む

生協ひろしま & みやぎ生協



みやぎ生協と生協ひろしま、社会福祉協議会の皆さん。



生協ひろしま
総合企画部 統括部長
高橋房大さん

明るい地域をつかっていきたい

今回のフェスタを企画した学生ボランティアの高橋ひかりさん



2015年2月で土砂災害から半年がたちました。復興が進んでも、被災者はまだ心に傷を負ったままです。今回のフェスタは「再スタート」、みんなでまた一緒に歩き出そうという思いを込めて企画しました。

「災害のことを忘れない」というメッセージを発信することはもちろんですが、復興すまいるフェスタを通して安佐北区の魅力を再発見して、このイベントが終わっても人と人につながっていくことができる明るい地域にしたいと思っています。

14年10月3日、みやぎ生協・生活文化部の須藤敏子さんが土砂災害で被害を受けた安佐北区、安佐南区を訪れました。生協ひろしまの職員の案内で被災場所を視察し、

「できることはありますか」 広がる支援の輪

住まいへ移り、15年2月には家屋から土砂の掃き出しもほとんど終わっています。しかし復興が進む一方で、東日本大震災の被災地と同様に今まで住んでいた地域のコミュニティが失われ、移転先で孤立感を深めている人も多いといえます。現在、生協ひろしまは有志で集まった個人やNPO団体が構成する「8・20広島復興支援市民会議」のメンバーとして、被災地域への支援や、災害に強い地域づくりに取り組んでいます。

社会福祉協議会の方からボランティア活動について説明を受けているときに、こう言葉が出たそうです。「みやぎ生協にできることはありますか？」

「復興すまいるフェスタ」の出店ブースでせんざいや豚汁が並ぶ中、みやぎ生協と生協ひろしまが提供したのは、宮城県の郷土料理「おぐずかけ」です。

離れた土地でも協力し合える 協同組合の力

「みやぎ生協は、東日本大震災の時に全国の生協の皆さんから温かい支援をいただきました。生協ひろしまさんは、ふれあい喫茶^{※1}で使用するお菓子の提供や、仮設住宅へ、お好み焼き隊^{※2}を派遣してくださいました。今度は私たちが力にならなければと思ったんです」

「どうしてここで宮城県の郷土料理が食べられるの？」とポスターを見たお客さんから声が掛かります。「震災のとき支援していただき、とてもうれしかったから」とみやぎ生協の職員が答えると、「あなたのところもまだ大変なのにありがとう。お互い頑張ろうね」と気遣いの言葉が交わされていました。

「こんなに遠く離れた地域でも、『協同組合』というつながりで生協ひろしまさんと一緒に出店することができました。来年もお声が掛ければ、また宮城名物を披露したいですね」とみやぎ生協・理事の鳥田加奈枝さん。



会場には「東北の女性たちの手作り産品」を販売する団体も。



宮城県白石名物の温麺(うーめん)に根菜や豆麩(まめふ)などが入ったあんをかけた「おぐずかけ」(写真右)が目目され、地元テレビ局の取材もありました(中央がみやぎ生協・理事の鳥田加奈枝さん)。



※1 広島県危機管理監危機管理課が運営する「広島県防災Web」での「8月19日(火)からの大雨による被害等について(第68報)」より抜粋。
※2 仮設住宅や店舗で被災された方々にお茶などを用意してほっとできる時間をすごしてもらう取り組み。